

京都府地震被害想定調査について

1 これまでの地震動Gにおける検討状況

(1) 地盤モデルの作成及び震度想定手法について

区分		地盤のモデル化	地震動予測手法
府南部	表層地盤 (工学的基盤以浅)	地形区分データ()及び収集ポイントデータから作成	地震波形計算
	深層地盤 (工学的基盤～地震基盤)	三次元モデルを作成 現在再現性を検証中	
府北部	表層地盤 (工学的基盤以浅)	地形区分データ()及び収集ポイントデータから作成	等価震源距離による 距離減衰式
	深層地盤 (工学的基盤～地震基盤)	(なし)	

「7.5-Arc-Second JEGMおよびVs30データ(若松・松岡)」

(2) 想定起震断層について

府域に関わる断層位置(始点と終点)設定の考え方

<既存知見に基づくもの>

国の地震調査研究推進本部の長期評価に基づく

上記調査がないものは、活断層研究会編(1991)「日本の活断層」に基づく

<京都市の被害想定調査に基づくもの>

京都市が被害想定を行っているものは、京都市の被害想定調査に基づく

<最近の新知見に基づくもの>

P波探査等で新知見が得られているものは、今回、新たにパラメーター設定を行う。

<その他>

その他の断層について、「見落とし」がないように東京大学出版会編「近畿の活断層」に、記載があるもの(黒実線)を設定(特に府北部等断層の密度が低い地域)

2 被害想定について

以下3つの大項目について、被害想定を実施

当面、被害数量予測の作業を優先して行い、他の項目は想定手法の検討を行う

(1) 被害数量予測

建物及び人的被害の数量予測を統計的処理により実施

出来る限り地域の特性(市街地や中山間地)を反映した予測を行う

(2) 機能支障予測

地震による影響度を予測する

・孤立地域予測

・給水、下水処理不能に伴う影響度予測

・鉄道や道路の不通に伴う物流への影響等府民生活への影響度予測

(3) 被災地状況予測

・時間の推移に伴い被災地で生起する状況を予測(被災シナリオの作成)

・既往の津波に関する調査資料を収集し、その影響度を検討